

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2372501417
法人名	有限会社パートナーシップ
事業所名	グループホーム 暖楽家
訪問調査日	平成 20 年 3 月 5 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 11 日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2372501417
法人名	有限会社パートナーシップ
事業所名	グループホーム 暖楽家
所在地	愛知県春日井市堀ノ内町字東浦477番地 (電話)0568-89-8500

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	名古屋市中村区松原町一丁目24番地 N203号室		
訪問調査日	平成20年3月5日	評価確定日	平成20年4月11日

【情報提供票より】20年2月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20人	常勤	7人, 非常勤 13人, 常勤換算 8.9人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費14,190 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	368 円	昼食	525 円
	夕食	525 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(4月11日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	はやかわクリニック、サン歯科医院、からき眼科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR中央線「神領駅」より徒歩5分の場所にあり、木造2階建ての外壁は、暖かなオレンジ色である。玄関には、手作りの表札や、季節の花、愛犬(ダン)を飼うなど、家庭的な雰囲気を醸し出している。法人代表は、看護・介護の重要性を身をもって実感され、「社会貢献第一」の信念のもと、管理者や職員との信頼関係を築き、一丸となって取り組んでいる。入居時に歩行が困難だった人も可能になるなど、利用者や家族の思いをしっかりと受けとめ、質の高いケアがなされている。また、最近看取りを経験され、「覚悟ができた」と言われ、今後の自信につなげている。ホーム1階の南側には、多目的ルームがあり、様々なイベントの企画を立て活用されており、地域にも開放されて交流に役立っている。協力医療機関との連携も24時間対応され、名前の通り「あったか」で安心して暮らせるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価を通じて、日々の取り組みの中での学びは、活かされているが、内外部での研修の機会の確保を進めて行き、全職のレベルアップに繋げていけることが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は、管理者や、ユニットリーダーに気兼ねなく、意見を言える雰囲気の中で自己評価を作り、管理者が確認された。職員全体で評価の意義を理解され、改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>第1回の運営推進会議が行われ、参加者より、要望、意見、助言等出るなど有意義な会議となった。次回は4月に計画されており、市町村や地域へ、ホームの理解を一層深めていけることを期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月写真入りの「暖楽家新聞」を送付し、日々の暮らしぶりを報告され、家族の来訪を促すきっかけとしている。意見箱は、玄関に設置されているが、投函は一度もない。去年6月より家族会も発足され、意見を出しやすい雰囲気作りもできて、運営に反映させていこうという意気込みが感じられる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との交流を目指しており、町内会長との連絡も大切にされ、地域行事への参加や、ホーム行事へのお誘いの声掛けにも努められ、地域との関係を構築しつつある。認知症に対して地域の人々に理解が得られるよう、介護教室などを開催され、地域住民との交流を深めていく取り組みに期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民との交流を大切にしながら、「暖かな気持ち」で、一人ひとりに向きあう独自の理念をリビングに掲げ、朝礼時には、理解を深めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼時に理念を唱和するなど、「自分の両親に暮らしてもらいたい」と思えるホームに、「親のように」という思いを大切に、管理者と職員は日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幼稚園、ボランティアの来訪(手品、日本舞踊、和太鼓)や洋服屋に出張してもらい買い物を楽しんだり、2か月に1回の床屋もある等、地域の方々との交流は多い。敬老会のお誘いを受けたり、夏祭りには地域の方々に声掛けをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	リーダーが中心となって、ミニカンファレンスの中で職員の思いを出しあいながら自己評価を作り上げ、ホーム長が確認しており、職員全体で改善に向けて前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回運営推進会議が、平成18年11月に開催され、要望や助言が出るなど充実した内容となっている。次回は、4月に計画されていて、町内会長にも協力を仰ぎながら理解につなげている。	○	今後は、定期的に運営推進会議を開催され、話し合いの中から率直な意見を引き出し、サービスの向上に具体的に活かしていくことを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	分からないことや相談があれば、ホーム長、事務長が直接市役所に出向いている。問題解決を早急に図っていくことの大切さを認識されており、質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月写真入りの「暖楽家新聞」を送付し、日々の様子を報告している。金銭管理も小遣い帳にレシート、領収書、明細書が貼られ、毎月送付し、入金の際に家族にサインを頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が去年6月より発足し、年に1回予定されている。意見箱も玄関に設置されているが、現状では投函は一度もない。家族は、話もよく聞いてもらえると感じしており、要望があれば直接言える雰囲気作りもしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力少なく、いきいきと働いていることが利用者の落ちつきある生活となっている。管理者は、職員同士のコミュニケーションを大切に思い、各ユニットリーダーを中心に、悩み事の相談等に取り組んでいる。新しい職員の紹介は、「暖楽家」新聞にて紹介されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が日々の取り組みの中で学びとったり、カンファレンスの中での勉強会、看取りについての意識など、質の高いケアの為に話し合いがされている。	○	今後に向け、事業所外の研修や講習会に参加できるよう、年間計画を立て、職員全員がさらなるレベルアップに取り組むことを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人による名古屋市守山区のグループホーム「優楽家」との合同会議が2か月に1回あり、サービスの質の向上につながる取り組みをしている。	○	外部の研修等の機会や交流の機会を通じて、春日井市の他事業所とのネットワークを広げ、より一層のサービスの向上につなげていかれる事を望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族との面接を行い、ホームを理解いただき、希望があれば体験入居にも対応している。利用者と家族と一緒に食事をとるなどして、徐々に馴染んでいただきながら、安定的な利用につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「暖かな気持ち」を大切に、日々を共に支え合うという気持ちを持ち、職員の「親のように」という思いの中、利用者や家族の喜びが職員の支えとなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、職員の気づきをメモに取り、全員が閲覧印を押すなど、情報の共有に努めている。介護記録も日勤、夜勤帯と色を変えて記入されており、関わりの中から希望、意見の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人の状況や思いを話し言葉で記録されており、家族の要望にも傾聴して、利用者主体の介護計画となるように話し合いを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは年2回、必要な方はその都度カンファレンスの際に行っている。介護日誌、日常管理表、業務日誌等の記録をもとに話し合い、半年に一度、家族の同意を得て、見直しを行っている。	○	入居されてからの介護計画は、個人ファイルにまとめて保管され、長期目標、短期目標の設定を確認する意味でも、早急の見直しが必要でない方についても、3か月に1回程度の見直しの実施に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階南側の部屋は、地域にも開放するため、地域住民に声掛けをしたり、夏祭りの行事の際は、焼き鳥、たこ焼き、みたらし団子などの食事を楽しんだり、ボランティアの来訪で楽しめる場であったり柔軟に使われている。また、医療機関と連携し、週1回の訪問看護を受けるなど、医療面での支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は家族の同行となっている。また、希望する医療機関の受診も可能であり、必要に応じて対応できる体制になっている。日常の健康管理表を作り、週1回もしくは2回の訪問医療の際、ナースが確認し協力医につなげ、健康管理の体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは、看取りの事例があり、看取りの指針についても、契約時に重要事項説明書の中で説明して、状況に応じて話し合いを繰り返し、職員も方針を共有している。そのような取り組みが、利用者や家族の安心感にもつながっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりの中で、自己決定していただく大切さを職員は認識している。昼食時には、さり気ない言葉掛けや、ボードにメモを貼る時には、名前をイニシャルで書くなどの工夫をされ、配慮がみられた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や一人ひとりの生活のリズムに合わせたケアがなされ、職員と共に仕事をしたり、ソファで横になったり、様々である。晩酌をされる方には、健康に影響しない範囲で認められ、希望にそった支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出し、調理の手伝い、配膳、後片付け等、それぞれが得意なこと、できることを職員と一緒にやっている。食事中も会話がはずみ、笑顔のある食卓である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、個別にゆったり入浴され、夏場にはシャワー浴もあり、希望があれば毎日入浴が可能となっている。入浴できない方には、清拭を行い、清潔を保つように支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、配食配膳、後片付け、つけもの作り等、積極的に関わっていただき、月1回、各階交代で喫茶店を開催して一人ひとりの力を発揮していただいている。夏祭りには、全員が浴衣を着て楽しまれた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年2回の花見や紅葉、月1回の外出、週1回の馴染みの喫茶店へ行くなど、楽しみ事も多い。日々の散歩や、週2、3回交代で食材の買い物など、戸外に出るよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の声かけ、見守りの中、安全面で配慮しつつ支援しているが、ホーム内の階段に続く引き戸は施錠されている。2階の階段上にも危険防止のために、木の格子で安全ガードされている。	○	2階の大きな引き戸は状況に合わせて施錠されているが、今後も引き続き、利用者の状態に応じて開錠方向について、工夫されることを望む。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立ち会いのもと、年2回、利用者参加の避難訓練を実施している。消火器を使用しての消火活動の訓練も行い、備蓄品は水、缶詰め等がある。	○	今後も定期的な訓練を実施されることや、地域の協力も得られるような働きかけにも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持った職員が2名おり、食事の献立は、栄養バランスを考えた献立となっており、手作りおやつも楽しんでいる。食事、水分の摂取量は、チェック表に記入され、毎日のケアに活かされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の花や、行事飾りがセンス良く、大人の色使いを配している。食堂の椅子には、食事に適した背面クッションも統一された色彩で設置され、作品壁面も工夫され、居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の暖簾は、各自好みの物が掛けられ、長年愛用されたダンス、鏡台、時計、ぬいぐるみ等、好みの物が持ち込まれており、生活スタイルに合わせて配置され、その人らしい居室・生活を大切にしている。		